

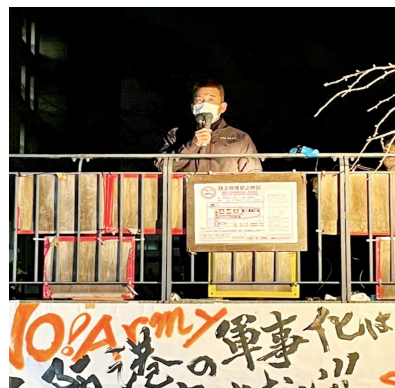
女神像前に300人が結集

侵略戦争1年抗議集会

2月24日、ロシア軍がウクライナに侵攻して早や1年を迎え、主催団体「しないさせない戦争協力関西ネットワーク」は中之島女神像前で抗議集会を開催した。

主催者の中北龍太郎さんから「ロシアの侵攻は 他国領土に攻撃を行う明確な侵略であり、国連憲章の武力行使禁止、領土保全や紛争の平和的解決の原則に対する重大な違反です。大ロシア主義に立ち勢力圏を拡大する目的で、戦後国際秩序を根底から破壊する暴挙は決して許されません」とあいさつされた。

ナでの戦争は単にヨーロッパの危機なのではなく、世界の安全保障と安定に対する挑戦だ。もしロシア勢力が勝利すれば、世界中の指導者に「軍事力を使えば欲しいものが手に入る」という危険なメッセージを送ることになる。そうす



ロシアの ウクライナ侵攻どう見る

2014年3月18日に、住民投票ロシアは国際的にウクライナ領土とされているクリミア半島を併合した。欧米や日本も併合は不法として認めずロシアをG8から排除した。ウクライナでは兵士あわせて30万人の死傷者とライフラインの破壊により暮らせる状況でなく世界に808万人が避難している。この侵略はこれまで何十年にもわたって続いてきた世界の秩序が危機にさらされている。

ロシアと中国などがこれまでの秩序に抵抗している。ロシアによるウクライナへの軍事侵攻はヨーロッパの平和を打ち砕いた。ウクライ

れば世界はより危険になり、日本も攻撃を受けやすくなる。

アメリカが守ってくれるから大丈夫と考えている人びとがいるが、有事になった場合、日本を守るのは自衛隊がまず率先して防衛し、その援護として米軍は応援するという。しかし、有事になれば米軍兵士を守るために真っ先に日本から撤退するだろう。他国を守るのに先頭切って死守するなどありえない。

停戦にむけた外交

今回、侵攻してきたロシア軍に対してウクライナ軍が予想以上の反撃に成功しているのは、支援のおかげであるが、それが原因でこ

の侵略戦争は終わる兆しが見えない。一部の領土をロシアに受け渡し停戦することを主張するコメントーターもいるが、先ほども述べたように間違った侵略で領土を奪うことを正当化させることになる。

この背景のもと、岸田政権は、2023年度から5年間の防衛予算の総額を、現状の1.6倍に当たる約43兆円にまで増やしただけでなく、これまで議論が進められてきた敵基地攻撃を可能にする、いわゆるスタンドオフミサイル配備（敵の対空ミサイルの射程外から攻撃する）にも踏み切った。ウクライナをめぐる対立が長期化すれば、日本周辺での緊張がさらに高まる可能性は高くなる。



まとめとして、大阪総がかり行動実行委員会の吉田さんは「ロシアはただちに軍事行動をやめ、撤退させることを強く求めます。国際社会が、ロシアのウクライナ侵略を停戦にするために世界の外交努力が不可欠です。武器を送るのではなく中身のある対話で犠牲になる市民、子どもたちが安全、安心して祖国に戻すことを願います」と訴えた。

（副委員長 陣内 恒治）

島々を戦場にするな！ 大阪アクション

2月26日、沖縄県那覇市の県庁前県民広場で「島々を戦場にするな！沖縄を平和発信の場に！2・26集会」が開催されました。この集会は沖縄県内の様々な市民団体などが企画し、台湾有事を想定した琉球弧への自衛隊配備・増強などに抗議し、沖縄を戦場にしてはいけないとの声をあげ、安保関連3文書の閣議決定の撤回や沖縄へのミサイル配備の中止などを求めて開催されました。

大阪でも同時アクション

大阪でも沖縄の集会に呼応し、午後1時から扇町公園で「Stop! 辺野古新基地建設！大阪アクション」主催による同時アクシ



ョンが開催されました。

辺野古新基地建設ゲート前の座り込みや名護市での安和行動の現状報告、各島（馬毛島、宮古島、石垣島、与那国島）での自衛隊の配備計画が進んでいる状況や抗議行動などの報告がありました。集会終了後は「島々を戦場にするな」

「戦争はいらない」などシュプレヒコールをあげ、梅田OS劇場前までデモ行進しました。

大阪港に、米強襲揚陸艦入港

2月20日、米軍艦「アメリカ」が大阪南港に入港しました。昨年12月には宮古島でも自衛隊が宮



▲強襲揚陸艦「アメリカ」

古空港を使用しました。民間の港湾や空港の軍事利用は反対しなければなりません。また、安保3文書の改定、軍事費倍増、軍備拡大、敵基地攻撃能力の保有など戦争をする体制が進んでいます。みんなで反対の声をあげましょう！

（書記次長 関谷 和人）

共済会第46回総会

第46回大阪支部共済会総会が、2月27日10時より、地本会議室にて総勢38名の参加で開催されました。

開会あいさつとして鳥野事務局次長が日頃の組合員の相互扶助と連帯強化をめざす労働者福祉活動に対する感謝を伝えました。そのあと、大会役職員を選出し、議長には大商分会の佐久原執行委員が選ばれ、スムーズな進行をしていただきました。

小林共済会委員長のあいさつでは、平和も含め共済会としてみんなで助け合う事の大切さを話されました。

私から、22年度運動活動報告並びに23年度運動方針(案)、収支決算書を報告、提案し、拍手で承認されました。

閉会あいさつで、和泉共済会副委員長は「コロナ感染拡大で取り組みなかった野球観戦を、今年は取り組みたい」と熱く話され、「団結ガンバロー」でしめくり



ました。

共済会としては共済会員の皆様と共に、未来に向けて財政に目を配ってもらう事、コロナと共に共存しながらできる新しい福利厚生などを一緒に考え、全会員の「相互扶助と福利厚生の向上」を目的として、これからも頑張っていきたいと思います。